

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第13回） 会議要録

日 時：平成16年2月25日（火） 午前10時～11時50分

場 所：武蔵野市役所第603会議室

出席者：東原委員長・小木副委員長・鶴川委員・増山委員

村田委員・古田土委員・永並委員

企画政策室長・企画調整課長ほか

1 開 会

2 議 事

（1）全員協議会について

事務局より、全員協議会での席次、議事録の取扱等について説明が行われた。主な議論は次のとおり。

【委員】女性施策については、これまでの討議でも、条例化などは市民の気運が高まるのを待つということであったと理解しているが。

【委員長】条例化するのならば、内実の伴った条例とすべきということだ。

【委員】市民のみなさんから、もっと提案していただきたいということか。

【事務局】市としても、中身のある提案をいただくことにより盛り上がりにつながると考えている。

【委員】コミュニティセンターについて、勉強のための場としての要望もあるのか。

【事務局】要望はあるが、それから先は別途検討すべきことだ。

【委員】消費者被害について啓発活動を行っているが、啓発活動はその啓発内容を取り込もうという人にしか実効性がない。高齢者や若年者対策として何かあるか。

【委員】市内の大学で新入生向けに行ったり、高齢者へは福祉施策の中で実施している。

【委員長】消費者被害については、一般市民をどこまでプロテクトするかという問題もある。

【委員】住宅政策の充実のために規制を示すことはどうか。

【委員長】問題となりそうなマンションは限られているのではないか。

【事務局】低層の住居と接しているところや、道路の狭いところが問題となる。

【委員】マンション増による学校施設の不足などの問題はないか。

【事務局】人口流入により学校が不足するという事は全国的にはあるが、武

蔵野市では過度な編入は想定されていない。

【委員】（公の施設の管理を民間事業者にも委託ができる）指定管理者制度の創設に伴い、3年以内に各施設の（管理方式の）見直しをしなければならないが。

【事務局】制度に基づく受皿づくりを検討する。

【委員】参加の仕方の拡大については、たくさんの人数を組織して計画策定を行うようなやり方に対する考え方は。

【事務局】個別の計画ではそういうこともあるかもしれないが、長期計画にはいままで積み重ねてきた方式があるという考えだ。

【委員長】過去にも延々と議論された経緯のあることと認識している。

【委員長】全員協議会については、自分の考えを積極的に言っていただくべきであり、遠慮はしなくてよい。我々は市長の委嘱を受けているが、この委員会も市民参加であるという立場だ。納得できないことがあれば納得できないと言っていたきたい。